

複雑化する アカウント管理の負荷を 軽減するには？

Active Directory から Microsoft 365 まで 「AD360」でアカウント管理を最適化

ユーザー認証やアクセス制御などを担う Active Directory (AD) は、企業にとっての最重要基盤の1つだ。しかし、その運用には多くの手動作業が伴い、IT 部門の管理者は重い負担を強いられている。またセキュリティ監査において必要なログ収集・分析や、レポート作成にも膨大な労力が費やされる。加えて Microsoft 365をはじめとするクラウドサービスの利用拡大に伴うIT環境のハイブリッド化は、アカウント管理のさらなる複雑化を招いている。この課題を解決すべくゾーホーが提供している Active Directory 統合運用管理ソリューション「ManageEngine AD360」について解説する。



世界で28万社以上の企業や組織に導入される、ゾーホー「ManageEngine」

ゾーホージャパン株式会社は、ワールドワイドで事業を展開する Zoho Corporation Pvt. Ltd. (本社インド) の日本法人で、IT 運用管理製品群「ManageEngine」やクラウドサービス群「Zoho」、これらに関連するサポート、コンサルティングを提供している。本資料で紹介する ManageEngine シリーズは、世界で28万社以上の企業や組織に導入され、必要十分な機能、リーズナブルな価格、直感的な操作感で日本でも多くの導入実績がある。

複雑化する Active Directory 運用管理

ユーザー認証やアクセス制御などの重要な役割を担っている Active Directory (AD) は、企業の IT システム運用にとって欠かせない基盤だ。しかし、Active Directory 自体の運用に様々な課題が顕在化している。

まずは「煩雑な手作業」。大量のユーザーアカウント作成・更新・削除や、パスワード忘れへの対応など、手動による作業が IT 部門の大きな負担となっている。特に入退社や人事異動が集中する時期には、IT 部門はこの作業に忙殺されることになる。

次に「セキュリティ監査の負担」。Active Directory から収集したログを分析し、コンプライアンス要件に合わせたレポート作成には、膨大な時間と労力が伴う。

そして「ハイブリッド環境活用による複雑化」。従来はオンプレミス環境の Active Directory のみ運用すればよかったが、現在は Microsoft 365 をはじめとするクラウドサービスの利用が拡大しており、これに伴うアカウントの二重管理や、セキュリティリスクの増大といった新たな課題に直面している。

もちろんマイクロソフトが標準提供している PowerShell を利用すれば、これらの課題解決は可能である。ただし、そこでは高度なスクリプト作成スキルが要求される。特にログ収集やバッチ処理といった複雑な要件に対応するには、専門的な知識や経験を持つ人材が必要となる。こうしたスキルを有する人材は、Active Directory の運用管理以外の業務にも従事していることが多いだけに、組織内で確保するのが難しいケースも多い。

こうした場合には、GUI ベースで操作できる専用の Active Directory 運用管理ツールを

活用するのも一つの方法だ。

4つのツールで Active Directory の課題を包括的に解決

ゾーホーが提供している「ManageEngine AD360」(以下、AD360) は、上記のような Active Directory に関する課題を包括的に解決する統合運用管理ソリューションだ。具体的には、下記の4つのツールで構成されている。

1.ADManager Plus

Active Directory 運用管理に関連する操作を簡素化するアカウント管理ツール。ユーザーやグループなどのオブジェクト管理からファイルサーバーの権限管理、レポート作成まで、幅広い操作を GUI ベースの操作で実現する。これにより PowerShell などを用いた作業の属人化を防ぎ、Active Directory 運用管理業務の工数を大幅に削減する。

2.ADAudit Plus

Active Directory のログを分析 / 可視化する。Active Directory で「いつ」「だれが」「どのような操作を行ったのか」を可視化し、内部の脅威をいち早く検知する。また、ドメインコントローラーから取得したセキュリティログをもとに、ユーザーのログイン状況を監査することができる。さらにリアルタイムのアラート機能を利用すれば、Active Directory に発生した不審なアクセスをいち早く検知することが可能だ。

3.ADSelfService Plus

パスワード管理業務をセルフサービス化する。すなわち、ドメインユーザー自身で、

アカウントのロック解除やパスワードのリセットなどを実行できるようにする。これらの操作は、ヘルプデスクへの問い合わせの30～50%を占めるとも言われており、IT部門の飛躍的な工数削減が期待できる。加えてADSelfService Plusは、エンドポイントMFA（多要素認証）やSSO（シングルサインオン）機能も備えている。

4.M365 Manager Plus

Microsoft 365 の監査・監視・管理機能を包括的に提供するツールである。日常的に発生するユーザーライセンスの付与や削除、ログ監査といった作業を効率的に実行することができる。Microsoft 365 では、Exchange Online、SharePoint Online、Teamsといったサービスごとにコンソールが分かれており管理が複雑になりがちだが、M365 Manager Plus はそれらを統合したWebベースのシンプルなUI提供している。また、標準機能では把握しにくい利用状況を可視化するレポート類が充実している点も

大きな強みだ。

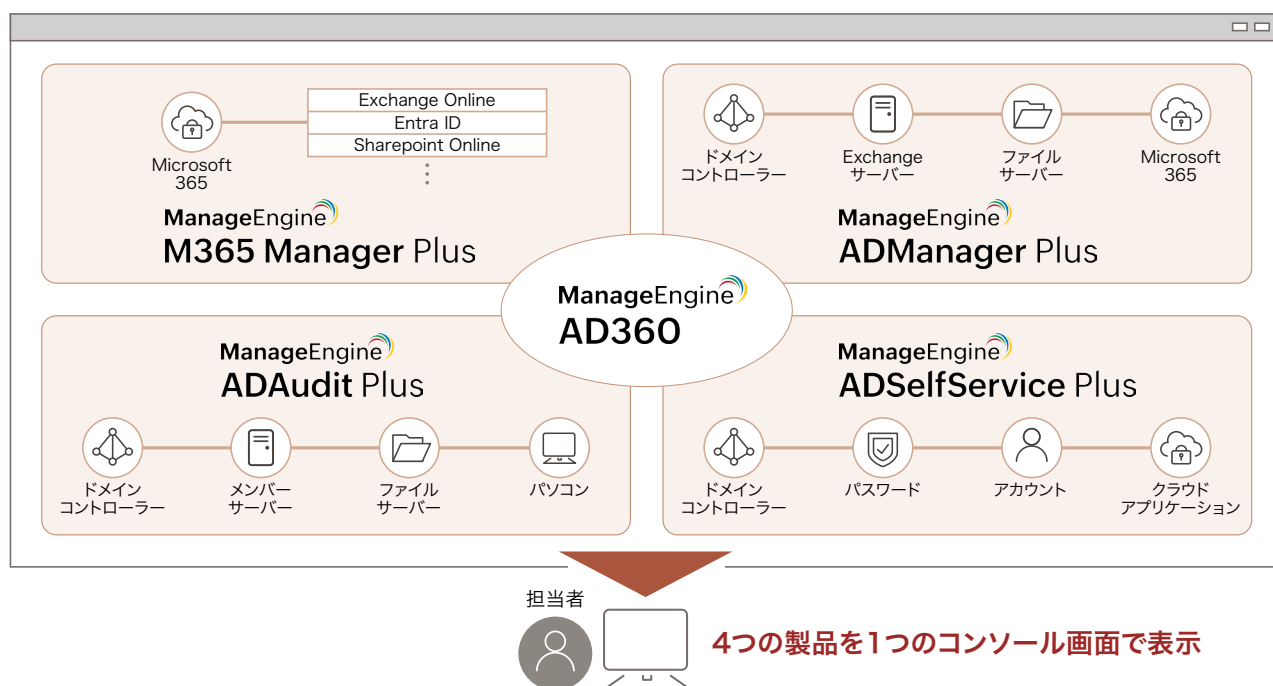
しかもAD360はこれらの4つのツールを1つのコンソールに統合しているため、別製品を組み合わせる必要がない。Active Directory運用管理全体に統一された操作性を提供することで、導入期間の短縮ならびに以降の運用業務の効率化が実現可能だ。

アカウント管理を 全方位で支える充実した機能

AD360は、Active Directoryの安全かつ快適な利用を実現するとともに、運用管理業務の効率化・省力化に貢献する次のような機能を備えている。

●ユーザーライフサイクル管理

ユーザーアカウントの一括作成から更新、削除にいたるライフサイクル管理を自動化する。既存の人事システムなど連携するほか、



CSV形式でのデータ一括取り込みも可能で、入社・異動・退職時におけるアカウントの誤設定や漏れといったケアレスミスを最小限に抑えることができる。

●リアルタイム監査・レポート機能

Active Directoryの変更履歴をリアルタイムで追跡し、誰が、いつ、何を変更したかを詳細に記録する。コンプライアンス要件に準拠したレポートテンプレートも豊富に用意されている。また、不審なログインや権限変更などを検知した際にはアラートで通知させることもできる。

●ファイルサーバー権限管理

ファイルサーバー上のフォルダーやファイルのアクセス権限を可視化し、不要な権限の棚卸を容易化する。これにより情報漏えいリスクを低減できる。

●ロールベースの権限委譲 (RBAC)

IT部門や事業部門の管理者に対して、それぞれ権限の範囲を限定した上で管理タスクを委譲することができる。特定の人物に全権限を委譲することを避けることで、内部不正のリスクを低減するとともに、管理者権限の効率的な運用を実現する。

●エンドポイントMFA（多要素認証）

ログインエージェントを導入することで、Windows、macOS、Linuxの3つの主要なOSすべてに対してログイン時のMFAを提供する。さらに、VPNログイン時や、OWAログイン時にもMFAを適用でき、適切なユーザーのみが機密性の高い内部リソースにリモートアクセスできるようにし、不正なアクセスを防止する。

こうした機能により、Active Directory運用管理の作業負荷を大幅に低減させることができる。例えばパスワードリセットに関する自己解決率をほぼ100%に向上し、パスワード関連のヘルプデスクへの問い合わせ件数を50%削減した企業の事例もある。

またAD360は、オンプレミスのITシステムとMicrosoft 365を組み合わせたハイブリッド環境の一元管理を可能にする。マイクロソフトから提供されている「Entra Connect」を利用することで、オンプレミスのActive Directory環境とMicrosoft 365との間でユーザーのアカウントを同期させることは可能だが、AD360が実現するのはそれだけではない。双方の環境をまたいだアカウントの変更など、統合されたコンソールで日々の多様な管理操作に対応する。

加えてAD360は、内部統制やセキュリティ監査にも貢献する。実際に「AD360から出力されたレポートを、そのまま監査に提出している」という企業も数多い。また、今後も、AD360のレポート機能はさらに強化されていく計画だ。

企業の成長に不可欠な安全で効率的なIT基盤

AD360を導入することで、単にIT部門の負荷を低減させるだけではなく、企業の内部統制とコンプライアンスの強化に貢献し、企業全体の生産性向上にもつながる。

●IT部門の工数削減：Active Directory運用管理における定型作業の自動化やセルフサービス化により、IT管理者の負荷が大幅

に軽減され、より重要なミッションに集中できるようになる。

●セキュリティ・監査対策の強化：アカウント変更履歴の詳細な記録とリアルタイムの異常検知により、内部統制とコンプライアンスを強化する。

●企業全体の生産性向上：さまざまなシステムへのアクセス（ログイン）に関するトラブルが減少し、企業全体の業務継続性と生産性向上に寄与する。

●ID管理の効率化：従業員の入退社時の設定ミスや漏れをなくし、アカウント管理の精度を高める。

このようにAD360は、ハイブリッドクラウド時代に複雑化しているアカウント管理に関する課題を、セキュリティ強化、業務効率化、ユーザビリティ向上という3つの側面から包括的に解決する。そして今後に向けても、ユーザーの増加やクラウドサービスの多様化に柔軟に対応すべく、継続的な機能拡張を図っていく予定だ。

企業の成長を支えるセキュアで効率的なIT基盤の実現に向けて、「AD360」を役立ててみてはいかがだろう。

To learn more about ManageEngine, visit [here](#).

© 2025 IDG Communications, Inc.

本文中に記載の会社、ロゴ、製品の固有名詞は各社の商号、商標または登録商標です。

CIO

SPONSORED BY

